

横浜市立中学校夜間学級について

1 夜間学級の設置目的

中学校の課程を修了しなかった学齢超過者に対し、夜間に中学校教育を行い、中学校卒業の資格を与えることを目的として設置する。

2 横浜市における夜間学級の変遷

昭和 22 年度	浦島丘中の分校、子安浜に「夜間補充授業校」として、夜間学級開始
昭和 25 年度	市内 10 校に中学校第二部学級設置 (大綱中、鶴見中、浦島丘中、西中、港中、平楽中、蒔田中、浜中、 保土ヶ谷中、戸塚中)
昭和 50 年度	生徒減少に伴い 5 校に縮小 (鶴見中、浦島丘中、西中、平楽中、蒔田中)
平成 12 年度	平楽中が閉級
平成 14 年度	仲尾台中が開級
平成 25 年度	夜間学級設置校 5 校 (鶴見中、浦島丘中、西中、仲尾台中、蒔田中) ※ 浦島丘中と西中は、生徒数 0 名のため、現在閉級状態。

3 現状の主な課題

- (1) 夜間学級の生徒は全市で 15 人いるが、5 校に分散されていることで、1 校あたりの生徒数が少なく、次のような課題が生じている。
 - ・専任の教諭がおらず、昼間の教諭が夜間学級の仕事を兼務しているため、生徒の現状に応じた指導内容・方法等の改善が図りづらい。
 - ・一校(学級)あたりの人数が少ないことで、生徒同士の交流機会が限られているほか、学級活動や行事が活発化しない。
- (2) 義務教育の学習機会を提供するという夜間学級の目的は変わってはいないが、外国籍の生徒が多いため、学習言語となる日本語の理解が充分ではなく、学習に対する習熟度にも格差が生じやすい。

4 「夜間学級課題検討プロジェクト」検討結果より

生徒の学習環境をより充実させるため、現在の 5 校(学級)を 1 校に再編・統合し、新たな「横浜型夜間学級」を構築することが望ましい。

- (1) 学習指導・保健指導等の充実
 - ・学習指導の充実を図るために、専任教諭および教科担当の非常勤講師を配置する。
- (2) 集団での学習活動
 - ・生徒同士の交流の機会を増やすために、統合で生徒数を増やし、コミュニケーション能力の育成を図る。
- (3) 日本語教室等との連携
 - ・外国籍生徒等への日本語指導を充実させるために、専門講師との連携を図る。

(4) その他、設置校として望ましい条件等

- ・学習空間が確保される。
- ・通学がしやすい。

5 今後の方針（案）

夜間学級について、5校を1校に統合することで一定数以上の生徒数を確保し、人員体制の充実を図る。また、現在の夜間学級の実態に即して、日本語教室の講師等を有効活用する方向で調整を行い、外国籍の生徒等の学習言語の理解を深め、よりきめ細かな学習支援が可能となるような体制を構築する。候補校としては、蒔田中学校を考えている。

6 スケジュール（案）

平成 25 年 10 月上旬～中旬	教育委員会 審議・方針決定
平成 25 年 11 月～	広報よこはま掲載 他
平成 26 年 4 月 1 日	再編・統合

《参考（設置校及び在籍生徒数等＜平成 25 年 9 月 1 日現在＞）》

- ・設置校 5 校、在籍生徒数 計 15 名
 - 鶴見中学校 5 名（3 年生：4 名、2 年生：1 名）
 - 仲尾台中学校 2 名（3 年生：1 名、2 年生：1 名）
 - 蒔田中学校 8 名（3 年生：6 名、2 年生：2 名）
 - 浦島丘中学校 0 名
 - 西中学校 0 名

（※）平成 18 年度以降、15 名から最大で 30 名の間で推移しており、外国籍生徒は、ほぼ、その 8 割を占めているのが現状である。